

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グルホームひまわり		
所在地	津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	令和 2年 8月29日	評価結果市町提出日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 9 月 17 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、いつも開設時の思いを大切にしています。利用者様、家族様のことを考え、課題に対して着実に取り組んでいきたいと考えています。地域の方々にも名前を知ってもらえるようになってきました。これからもお役に立てるよう頑張りたいと考えています。温かいグループホームを目標に認知症の理解を深め、職員の資質向上を図りたいと思っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が管理する自然に囲まれた広い緑豊かな公園には四季折々の花が咲き、利用者のくつろぎの場となっている。職員は、地域密着型グループホームの意義・認知症の理解を極め、利用者・家族・介護に関わる全ての人々が笑顔になれるように、「笑顔と笑顔でつながる心」をスローガンとして事務所に掲げている。職員がいつも笑顔でいるとそれだけで心が和み、居心地の良い空間が生まれ、利用者のエネルギーがふつふつと湧き立つようなそんな関わりをしていきたいと、設立16年間支援を続けている事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和顔愛語を基本に利用者、家族様の期待に沿えるよう取り組んでいます。	理念は事務所と3ユニット毎のリビングに掲示されている。相手の目を見て笑いかけたり、親身になって自分の子供に接するようにやさしい言葉掛けを行っている。また、人を大切に・人を中心に、介護の本質を見極めフロア会議で毎月振り返り実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と行事などを通じて交流をしています。災害時にも協力体制をお願いしています。	事業所の夏祭りの案内状配布を地域の組長に協力を得たり、中学生の職場福祉体験、ボーイスカウトとの門松作りやボランティアの来訪がある。また、運営推進会議に自治会・副会長・各組長が参加し、地域との交流を高めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に認知症の方への理解を求めて生きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの運営や介護保険制度、災害時の協力について意見交換をしています。	併設のグループホームと合同で、会場は地域の集会所とホームで交互に開催している。自治会・副会長・各組長・地域包括支援センターの参加で、利用状況・行事報告・意見交換を行ない、年6回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定更新、運営基準などについて相談に応じてもらっている。サービスの向上に努めている。	生活支援課から生保の利用者の受け入れ依頼や、管理者が毎月窓口に介護相談・更新手続きに出向き、担当者と連絡を取り協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、3ヶ月に1回研修を行っています。	3ヶ月毎に高齢者虐待防止学習テキストを使用し、あらゆる拘束をしない職員研修に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回は虐待防止の施設内研修を行い取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行い取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約をさせていただいておりますので、その時にご説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接お話を聞いたり電話連絡時にお話を伺うなどし運営に反映しています。気軽に話し合いが出来るようにしています。	利用者からは日常生活の何気ない会話から、家族からはアンケートを実施したり、利用料金の支払い時・おむつの持参時・面会時等に意見の把握に努めている。家族の意見が言いやすい様に、利用者の日常生活の様子等を交えて事務所・居室で行なっている。家族からは受診支援は事業所でお願いしたいとの要望がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議時や日々の申し送り時に話し合いながら取り組んでいます。	年2回、管理者と個人面談の機会があり、意見・提案・改善事項等が反映出来る様に努めている。また、管理者自らも利用者・職員に喜んでもらえるように日々、アイデアを思考し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	和気あいあいとしたチームワークを重視し職場改善に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護現場で働きながら資格が取れるように支援している。外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナウイルスで他施設との交流がなかなか難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後に、本人からよく話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの要望など話を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護現場の中で一人一人の状況を確認しながら適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに信頼関係が保てるよう努めています。コミュニケーションをとりながら一方的にならないよう気を付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入り、良い関係になるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は大切であるのでできる限り支援していきたい。	近所の人・知人が訪ねてきたり、家族が実家に連れて行ったり、また、家族に手紙を出す利用者もいる。かかりつけ医の受診も有り、出来る限り人や場所との関係が途切れない様に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って一人一人の支援に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談事があれば支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの意向を尊重した支援に取り組んでいる。自分から伝えることができない方には家族様や職員間で相談しながら取り組んでいます。	本・新聞のチラシ等を利用して、好きな物・行きたいところ・やりたい事等を、利用者との会話の一助として把握に努めている。面会時の家族にも聞いたりして聞き取った思いや意向は、申し送り書や個人カルテに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを確り取り以前の生活と変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日接している中で状況の確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護度が変わったり、日々状態の変化があるのでその都度話し合いをしています。フロア会議で計画作成担当を中心にモニタリングをしケアの統一に努めている。	家族の意向は面会時、文書での送付、電話等で聞き取り、モニタリングを毎月職員が実施している。3ヶ月毎にモニタリングの結果をケアマネジャーが評価し、見直しを行なっている。日々の状態の変化があればその都度、フロア会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援をした事項について記録を残すことは振り返りやどうなったかを確認するために必要である。その後の支援につなげることに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズはその時の状況によって変化していきますので対応については勉強していきたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し必要時に活用できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医とは入所されても引き続き適切な医療が受けられるよう関係を持ってもらうようにしています。	かかりつけ医・協力医共に24時間対応が可能であり、協力医からは1日置きに一日1名の定期訪問診療がある。受診は家族に協力依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師と連携し対応している。看護師を配置できるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とはその都度連絡を取っています。家族様とも情報交換しながら入退院の支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときは主治医に相談して指示をいただくことにしています。延命治療については家族様の意向を踏まえた対応をしています。	契約時、家族に事業所としては看取りが出来ない事を口頭で伝え、重度化や終末期のあり方については家族に、主治医からの判断指示を得るように伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変、事故発生時には状況を確認し主治医に連絡、又は救急要請をするなど対応にあたっている。AEDの設置、急変時のマニュアル作成をし取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のために非常食は準備しました。避難方法や救援依頼、公的機関、家族様への連絡など職員で確認を取っています。	年2回、(消防署立ち合いは1回)通報・避難・消火・AED使用訓練、また、事業所独自で職員の参集訓練を実施している。避難場所を居室ベランダ・駐車場と決め、屋外倉庫内には3日分の非常食を保管してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する取り組みをしている。プライバシーを大切にする。どんな時も優しい言葉かけをする。	常に一人一人の誇りやプライバシーを損なわない言葉掛けに心掛けている。個人情報・介護記録等は人目の付かない場所へ保管している。利用者との会話中はやさしい言葉づかいに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自ら気持ちを表してもらえような声掛けや、見守り、意思を尊重するように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のリズムを崩さないよう生活していただくように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることはおしゃれにもつながると思いますので、利用者様に希望を聞きながら取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者により食材が届きメニューも決められているが月1回オリジナルメニューで利用者の希望を取り入れています。	メニュー食材を業者に委託して、職員が調理している。職員対象の料理教室を2か月毎に開催し、月1回は利用者から希望メニューを聞き、常に家庭の味の食事が楽しめる様に職員は日々工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や、好みの食べ物、嫌いな食べ物があるときは工夫をしています 熱中症予防のため水分摂取にも気を付けています。嚥下状態を確認し食べ物の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を清潔にすることは肺炎予防になるので清潔にしてもらうよう取り組んでいます。入れ歯調整など訪問歯科医に依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけを行い出来るだけトイレでしてもらうように取り組んでいる。必要な方はリハビリパンツなどを使用いただいています。	利用者27名中、18名は便意・尿意を訴える方はいるが、自立している方も4名おり、定期的に(食事前・起床時・就寝前)に声掛け、トイレに誘導し可能な限り排泄はトイレでと支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事や水分補給を確りともらっています。かかりつけ医に相談し便秘薬をもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っています。個人の希望を聞きながら入浴をもらっています。	午後より週3回入浴支援している。ほとんどの利用者は湯舟にゆったりとつかり、一人一人お湯を入れ替えているのでいつも1番風呂である。入浴拒否される方もいるが、息子さんの声掛けにより楽しみな入浴となる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるよう寝具、照明、室温調整に配慮しています。寝られないときはフロアーに出てきてもらい話し相手となり見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	他の方と薬の飲み間違いのないように、飲む前に名前と日にちを声を出して確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活が単調にならないようレクリエーションをしたり、行事をしたり、洗濯物をたたんでもらったりと役割を持っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、外食などの外出を支援している。家族様と外出をされてみえます。	法人が管理する公園には、梅・桜・紫陽花・藤が植樹され、地域の方々も四季を通じ訪れている。利用者も外気浴・散歩をかねて花見に出掛ける年に行ったり、初詣に出掛けたり、家族と実家で正月を過ごす利用者もいる。	利用者はおのずと室内で過ごす事が多くなるが、四季の豊かな自然に恵まれた立地条件にあるので、気分転換・ストレス解消や見当識・五感の刺激の為にも、本人の希望や能力に応じた日常的な外出支援を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額のお金を持っていただくと、しまい忘れていたり、なくされたりするといけないので控えていただいています、少額のお金は持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡など自由にしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるように、音や光、空調など気をつけています。	今回、コロナ予防策で共用空間は移動できなかったが、リビング兼食堂の入りロドア越しに利用者の様子等を眺めることができ、各フロア毎の壁に季節の花が描かれた作品が飾ってあったりした。厨房は対面式になっており、食事の美味しそうな匂いが流れ明るい空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの場所は確保しています。みんなで過ごす空間も出来るよう取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には家族の写真や自分が使っていた物などがおいてあり、居心地よく生活できるように家族様の協力のもと取り組んでいます。	居室も面会禁止なので確認は出来なかったが、ベッド・洗面所・トイレが備え付けられている。居室は2階・3階・4階に配置され、非常時の避難にも備えて各居室毎にベランダが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは歩行していても段差もなく安全な環境になっている。移動時は足元がふらつく方は車椅子や杖を使用してもらっている。		